



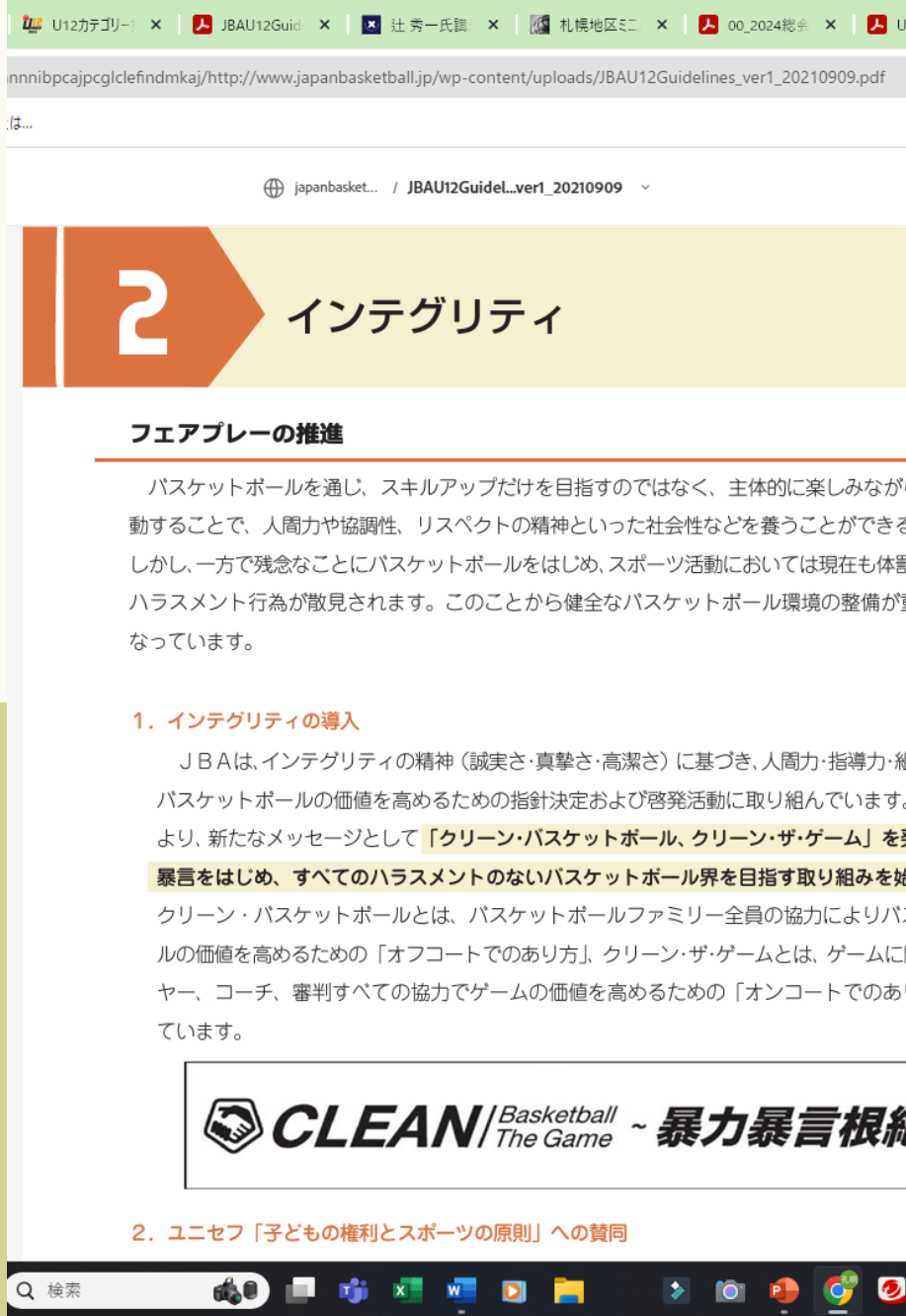
**2025年度  
札幌地区バスケットボール協会  
U 1 2 部会**

**インテグリティ研修  
2 0 2 5 . 9 . 7**



# 本日のねらい

- ① インテグリティの周知を行い、子どもたちが健やかに楽しくバスケットボールを行える環境づくりを行う。
- ② 5月に開催された、北海道バスケットボール協会主催のインテグリー研修を参考に、指導者や保護者の意識改革を推進する。
- ③ 『育成マインド』を通して、U12カテゴリーの指導指針・指導方法について考えるきっかけをつくる。



インテグリティとは・・・

誠実さ・真摯さ・高潔さ  
に基づき、人間力・  
指導力・組織力を高め  
ていく

2025年度北海道バスケットボール主催の  
インテグリティ研修の中で伝えていた内容の一つ

## チャイルド・マルトリートメントを意識 した子どもとの関わり方の重要性

### マルトリートメントとは・・・

- ★マルは「悪い」、トリートメントは「あつかい」とされています。「避けたい子育て」と言われています。
- ★身体、精神、性虐待そしてネグレクトを含む児童虐待をより広く捉えた、虐待とは言い切れない大人から子どもへの発達を阻害する行為全般を含めた不適切な養育を意味します。
- ★つまり、虐待とはほぼ同義ですが、**「子どものころと身体の健全な成長・発達を阻む養育をすべて含んだ呼称」**であり、大人の側に加害の意図があるか否かにかかわらず、また、子どもに目立った傷や精神疾患が見られなくても、行為そのものが不適切であれば、それは『マルトリートメント』と言えます。

WHOのチャイルド・マルトリートメント（Child Maltreatment）の定義より

### U12カテゴリー「指導行動の指針」

JBA U12カテゴリー部会

U12カテゴリーから「暴言・暴力」を根絶し、子どもたちが「楽しく」プレーできる環境をつくるため、指導者の皆さんには「指導行動の指針」として、つぎのことを意識して、指導に当たっていただきたいと思います。

#### <やってほしいこと>

- ・はげます
- ・元気づける
- ・委ねる
- ・引きだす・導く
- ・判断させる
- ・主体性を育てる



#### <やってほしくないこと>

- ・怒る
- ・怒鳴りつける
- ・指示ばかりする
- ・威圧する
- ・判断させない
- ・支配する



みなさんの指導は  
どうですか？

**JBA**  
**『U12カテゴリー指導  
ガイドライン』の  
『育成マインド』が重要！**

# スポーツ（バスケットボール）におけるマルトリートメント

## 強いチームによくある光景

あるチームでは、強い圧力をかける指導が横行していました。ベテランと呼ばれる年代の指導者が、子どもの行動を常に監視し、少しでも枠から外れるような行動をとると大声で怒鳴ったり、力づくで行動を制止したりすることを繰り返していました。その指導は、チーム全体に浸透しており、若い指導者たちも「こうすれば、子どもたちは言うことを聞く」といった間違った成功体験を積んできました。また、審判に対して過剰なクレームを呈することが試合に散見されました。

子どもたちの表情に笑顔はなく、指導者に怒鳴られることで頻繁にパニックに陥る子どもや、毎回の練習へ「行き渋る子ども」が続出していました。ところが、指導者による苦しさは子どもたちはなかなか訴えることはできません。「行き渋る」ことは「親の甘やかした」と保護者が責められることもあります。保護者にとってこのようなチームは我が子を「人質にとられている」現状であり、申し立てることさえできないまま、時間だけが過ぎていきました。

すると、子どもたちは、強い圧力でなければ動かなくなってしまう。これでは、子どもたちは楽しくないばかりか、本来あるべき自主性が育ちません。

ここから  
読み取れるのは…

### 指導の現状【各方面への傾聴から】

- ☐ 子どもへの人権侵害
- ☐ リスペクト精神の欠如
- ☐ 審判への過剰クレーム
- ☐ 強ければいいという勝利至上主義
- ☐ マルトリートメントの横行

# マルトリートメントの指導の具体

## ネグレクトに類似した指導

- ☐ 励ましや賞賛などをしない
- ☐ 特定の子の指名を避ける
- ☐ 支援が必要な（上手ではない）子の合理的配慮を行わない
- ☐ 必要な指導準備を怠る
- ☐ 取り組むべき課題を放置する・自立と自律を誤認する
- ☐ 支援が必要な（上手ではない）子の指導を他者に丸投げする
- ☐ 見捨てる言葉「勝手にすれば」「さようなら」などと言う

## 心理的虐待に類似した指導

- ☐ 威圧的・高圧的な指導、力で抑え込む指導
- ☐ 子どもが自信をなくすような強い叱責
- ☐ 子ども的人格を尊重しない言動
- ☐ 子どもの主体的な行動を妨げるような指導

## 大人の『マルトリ』

- ① 大声で怒鳴る・罵倒する
- ② 子ども的人格を否定する
- ③ ペナルティーで子どもを服従させる
- ④ スポーツをする機会を奪う
- ⑤ 他者の前で子どもを晒しものにする・他者と比較する
- ⑥ 子どもを無視する・目を合わさない
- ⑦ 子どもとの対話を怠る
- ⑧ 子どもの要望に対応しない
- ⑨ 指導計画を立てずに現場に立つ・場当たり的な指導
- ⑩ 指導者自身の取り組みを振り返らない

ここに挙げた指導の具体に当てはまっているかを、ご自身で振り返ってみてください。

また、保護者の方も、「大人のマルトリ」として、ご自身のお子さんやチームの子どもたちへの接し方などを振り返ってみてください。

# 「マルチ」と育成マインドのつながりは・・・？

7



## 育成マインド

『マルチ』の言動をしないためにも、『育成マインド』の、子どもに考えさせ、子ども自身の主体性を育み、人としてどう成長させることができるかを、常に考えた**指導や関わり方、支援の仕方が重要**となる！

### 1 育成マインドの定義

プレーヤー個々の成長過程を重視する考え方

- ① 課題の与え方、課題を考えさせるコーチング
- ② 将来を見据えた勝敗を目指すプロセス、勝敗結果の捉え方
- ③ オーナーシップ（自分自身で責任を持つ・主体性）を育む

#### ★ティーチング

・・・経験豊富な人が、そうでない人に、明確な答えを持ち合わせながら、知識や技能を伝える

#### ★コーチング

・・・対話を通して、受け手が自ら答えを導き出せるようにサポートする指導

# 大人によるアタッチメント（愛着）の重要性

8

## アタッチメントとは・・・

人が特定の養育者  
（多くの場合、親）  
との間に築く、  
情緒的な結びつきのこと

## ゆえに・・・

『安全な避難所』  
『安全な基地』  
→ **活動する場が**  
『**心の安全地帯**』  
となっているとよい！

子どもは、認めてもらいたい、  
愛されたいと思っている！

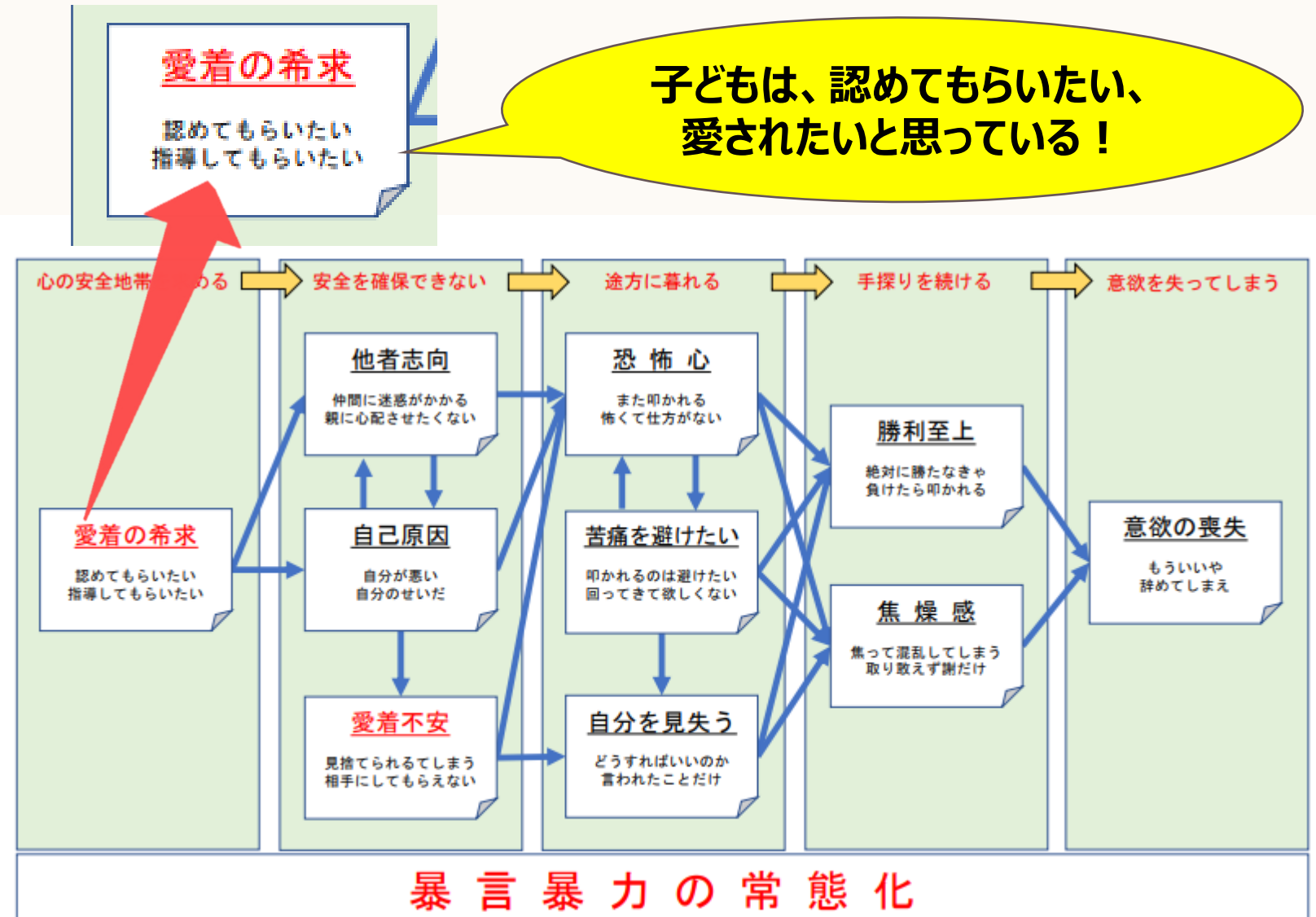
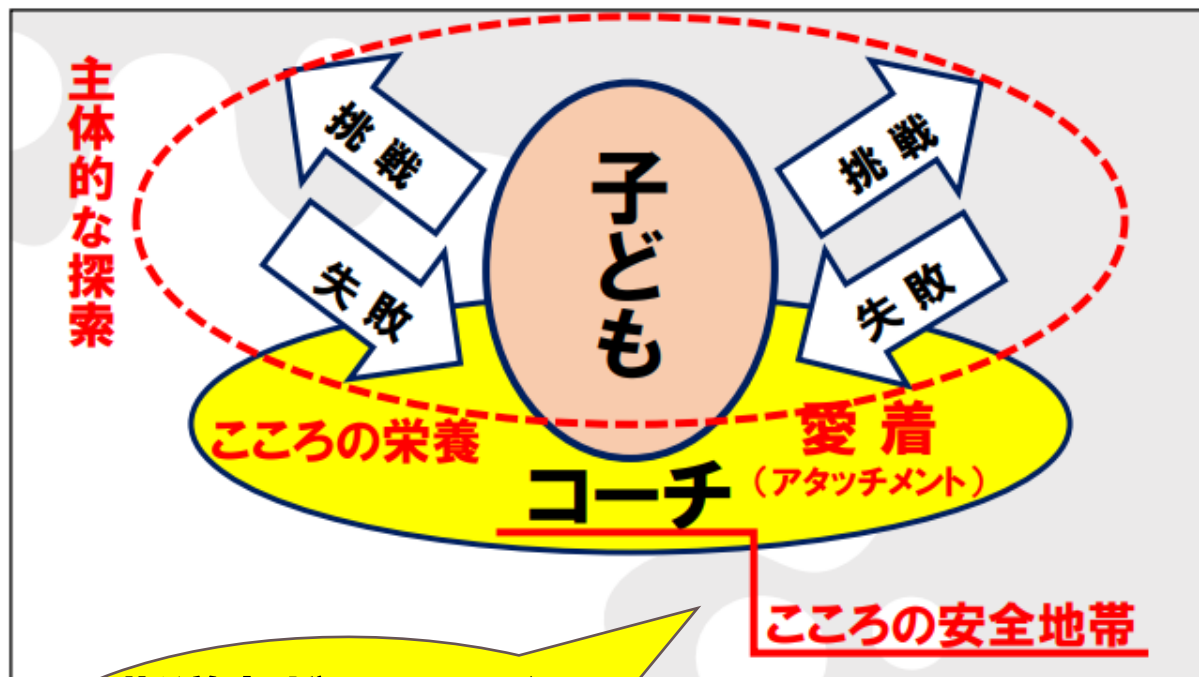


Fig.1 暴言暴力によって生じる愛着不安の影響

# アタッチメントのつくり方

9



指導者だけではなく、  
家庭＝保護者  
も子どもが  
安心できる場所に！

## アタッチメントのつくり方

- 目を合わせる
- 笑いかける
- 語りかける
- 触れ合う
- 感謝を伝える
- 努力や過程を認める

信頼関係  
ラポール

自分のことを  
気にかけてくれている

自分のことを  
分かってくれている

安心して  
挑戦することができる

### コンディションサポート言葉かけNG編

- またミス（失敗）しないでね ⇒ ミスしたときを思い出し、不安や心配が大きくなる
- 期待しているよ。勝たなきゃだめだよ ⇒ 期待をし過ぎると、確実な動きをしようとして守りになりやすい
- ○○君より、いつも遅い、恥ずかしい ⇒ 誰かとの比較で緊張しやすくなる。ミス＝恥ずかしいと考え挑戦しなくなる

### コンディションサポート言葉かけOK編

- 応援しているよ。どんな結果でもOKだよ ⇒ どのような結果でも受け入れることで安心させ、挑戦しやすくする
- ○○が出来てるときは、調子が良いよ ⇒ 出来ている、調子が良いことを自覚することで、自信をもってプレーできる
- 結果より、過程を重視する言葉かけをする ⇒ すべきことを意識することで、集中力が高まる

# 終わりに

- 子どものためと思っている指導やしつけ≠支配となっていませんか？ ご自身（指導者だけではなく、保護者の方）の言動が、気付かぬうちに「マルトリートメント」になっている可能性がある！  
⇒**子どもにとって「こころの安全地帯」となるように！**
- 6年生にとっては、最後の大きな大会となるため、勝利を目指す過程を大切にしながら、**指導者・保護者の共通理解のもと**、勝敗の受け止め方の指導や支援も充実させる  
⇒相手への敬意や感謝・チームの仲間や保護者、指導者への敬意や感謝・  
努力を重ねた自分（チーム）を称える・練習してきたことが発揮できたことを賞賛するなど  
⇒**指導者と保護者の関係をよくする努力をする・お互いの考えや声を傾聴する**
- 子どもが、バスケットボールを通して「**楽しかった**」と感じられるように、子どもの未来に責任を持つ  
大人が、学び続ける必要がある  
⇒**自己を振り返り、改善し続ける！ 見直すべきは自分自身だと理解し**、常に自己反省に基づき、  
体質改善を目指す

\* 資料引用：JBA『U12カテゴリー指導ガイドライン』『JBA 2023インテグリティ研修』

\* 参考：『5月開催 北海道バスケットボール協会主催のインテグリティ研修』